

福島県現代俳句協会会報

復刊第1号
2019/11 発行

令和元年度福島県現代俳句協会総会開催される

協会総会開催される

五月二十六日福島市民会館にて令和元年度総会が開催されました。昨年五月の休会以来一年ぶりの総会開催で、前事務局長の健康上の理由による辞任とその後の協会本部との相談の経過が報告されました。平成三十年会計決算と令和元年度会計予算、令和元年度事業計画が提案され、事業計画については新体制での執行となるため「参考案」とし、全ての案件が承認されました。(4頁参照)顧問に鈴木正治前会長が就任し、新役員体制が以下のように承認されました。

会長 春日 石疼(新)
副会長 伊藤ユキ子(再) 江井 芳朗(新)
池田 義弘(新)
事務局長 宇川 啓子(新)
同 次長 奥山 俊夫(再) 佐藤 弘子(新)
会計 大河原政夫(新)
監事 鈴木満喜子(再) 木幡 テイ(新)
(なお、その後伊藤ユキ子氏・奥山俊夫氏からは辞退の申し出がありました。)

相互に学びあい、新世代にアピールしよう

福島県現代俳句協会長 春日 石疼

先の総会で新会長に選任されました春日石疼です。十四年にわたり福島県の現代俳句を守ってこられた鈴木正治前会長の後任として、経験も少なく不安も大きいですが、皆様のご協力の元、さらに飛躍する福島県現代俳句協会としていきたいと思っております。

その手始めとして、滞っていた「県協会会報」を復活させました。年に二回程度の発行を目指しています。会報は原稿や配布など、会員の皆さんのご協力なしには続けられません。皆さんで育てていただきますようお願い致します。

会員相互の研鑽と共に、若い世代に俳句を普及させることが私の大きな任務と考えています。福島は東日本大震災と東京電力福島第一原発の爆発・被曝の影響を今なお抱え、これからの影響を受け続けると思いません。愛する風土とそこに住む人間の思いを、私たちは福島発俳句としてもっと発信してよいのではないのでしょうか。福島県現代俳句協会の誇りをもって、皆で力を合わせて楽しく学びましょう。

秋田市で現代俳句東北大会開催

いわきの長岡由さんが最高賞

第三十三回現代俳句東北大会が九月二十八日、秋田市で行われました。福島県からは春日石疼会長・宇川啓子事務局長が参加しました。

講演は現代俳句協会副会長の高野ムツオ氏。『兜太―晩年の俳句』と題して、金子兜太の遺句集『百年』中の句を挙げながら、兜太の世界観を語りました。兜太を支えるものは戦争体験であり、風土への思いであり、戦争体験は過去の事ではなく、現在の生き方とリンクしていること、さらに未来への視点を持つていと話されました。また狼・鮫・柿など意外に兜太の題材は限られているが、あるがままの姿で存在するように詠まれていると話され、聴衆は大きな感銘を受けました。

いわきの長岡由さんが「骨といふあたたかき父拾ひけり」が最高賞の現代俳句協会賞を受賞しました。長岡さんは「骨になりても母は怪しぞ雪降らず」で、講師の高野ムツオ氏の特選にも選ばれ、ダブル受賞でした。県内作家の作品では唯木イツ子さんの「水鏡にうつっているのは春愁」が講師入選句、当日吟で春日石疼さんの「秋田まで電波届かず紅葉溪」が講師並選句に選ばれました。

次回開催は令和二年九月に青森を会場に行われます。次年度開催の抱負を「オリンピックに負けない大会にしよう」と語られた青森県協会長の泉風信子さんが秋田大会翌日に急逝されました。ご冥福をお祈りいたします。

会員作品七句

ばっさり菜

木幡 テイ（岳）

新ヒアリ

五十嵐 進（同人誌「らん」）

人間が空に刺さっている日暮れ
暗闇の形をしていた人たちが泣く
無念の子よ月光のフォルテシモ
日本人を先導しているモズの群れ
土を喰うくちみみはなが考える
昼の星なみだになろうコシアブラ
風向きに手を貸している新ヒアリ

燈下親し

加藤 征子（鷹）

朝な朝な雉鳩に醒む早苗月
バリーフラナガンの兎跳躍青嵐
ご赦免花咲く寺屋根の威をなせり
一念のすたと落ちし昼寢覚
箴言と孫の手壁に夜の秋
涼新たなり裸婦像の指の反り
燈下親し一語拾ひて一語捨つ

祖の遠慮煤け搗布（かじめ）の一吠（かます）
衰へを肯へる日々ばっさり菜

春窮やこれより先は猿の山
凭（よ）れる木を締め山藤の宙ぶらり
八月の父祖の地どこも酸素過多
恙無きは僥倖風の吾亦紅
被曝地の畦荒れ意地の狐花

十日夜

丹羽 裕子（小熊座）

遠吾妻晴れて雲なし穴惑い
影も根もたしかに存す草の花
兄弟も時には唾（いが）む梅擬き
黄落の一枚ごとの月日かな
鼻に合わぬ眼鏡や十日夜（とおかんや）
洗い張りを叩く母の掌小六月
地に眠る幾万の俘虜白鳥来

会報へのご意見やご希望は、以下の編集
部にご連絡ください。

福島市八木田字神明十三の八 春日石疼

TEL 960-8164

090-6220-4757

一句鑑賞

村ひとつひもろぎとなり黙の春 永瀬十悟

掲句は現代俳句協会賞受賞句集『三日月湖』50
句抄の一句。再び蘇ることのない産土に、汚染物の
黒いフレコンバッグが巖のように築かれ累々と続く、
言葉もない現実を詠まれ、ラ行が胸に響き渡る。「原
発事故禍は自然と人間に様々な分断を引き起こし、
今も続いています。しかし同じ過ちを繰り返さない
ようにという声はいつしか消え、被災地や社会的弱
者は三日月湖のように取り残されています」という
氏の受賞のことが胸に迫る。（平子玲子）

車にも仰臥という死春の月 高野ムツオ

三・一一の東北大震災の津波の折りの句。実際に
目の当りにした作者のオドロキ。

「車の仰臥」と記しただけで、真黒な波頭の怒涛
が飛沫を上げながら押し寄せ、いかに大津波だった
か、鬼気迫る生々しさを感ぜさせてくれた。運転し
ていた人間は、との想い。ものを切り取る一瞬の眼
光の鋭さに、只々感動。私ごとですが、県文学賞の
謝辞の折、この句を使わせていただきました。本当
に、良き師に出会いましたことに、感謝。

（久保鞆鼓）

祝！現代俳句協会賞 永瀬十悟さん

『三日月湖』を読んで 植木國夫

第一句集『橋籠』から五年半、『三日月湖』は、想定外といわれた事故は現在進行中、子供たちの生きる未来へ俳句を通して伝えたいとの作者の熱い思いで編まれている。

氏は、東日本大震災から僅か二か月余で作った「ふくしま」五十句でみごと角川俳句賞を受賞。「どういう力の持ち主か見てみたい」（長谷川權）、「この作品を皆さんに見せたい」（正木ゆう子）とその選者に言わせたほどだ。

逢ひに行く全村避難の地の桜

廃屋となりたる牛舎燕来る

桜満開どこかでだれか泣いてゐる

村ひとつひもろぎとなり黙の春

目かくしのままの雛よ標葉郷

除染袋すみれまでもう二メートル

塞がれしポストの口や去年今年

コスモスや片付けられし墓百基

かくして氏は、ふくしまの人と暮らし、生業、そして自然の移ろいはずっと見詰め続けている。

暖かく、そして時に厳しく。

平仮名の「ふくしま」が私は好きだ。漢字は堅苦しくて窮屈で、片仮名は冷たく、少しばかり怖い。その点平仮名は暖かく、柔らかい。氏はふくしまの今をありのままに見つめながら、そのふくしまが豊かに大きく育つことを強く願いながら、俳句の世界を広げている。

新入会員

2019年以降、新しく福島県現代俳句協会に入会された皆さんの句と自己紹介を、誌面の関係で今号・次号に分けて掲載します。

唯木イツ子（福島・小熊座）

春愁の端つこ過る新幹線

曼珠沙華の蕊が小指を離さない

浜菊とみどり女句碑と水平線

俳句を始めてから八年目ですが、自分で納得のいく句が中々出来ず悩んでいる処です。ぱっと閃めいた事をさらっと俳句に出来ればいいないつも思っております。

湯田 一秋（会津若松）

はこべ草村を出ぬ姉恙なし

点滴に窓辺の緑注入す

炎天やソロモンの地に溶けし兵

季節を体で感じたたくて、六年前から畑を借りて妻と共に汗を流している。種まきから収穫まで、多くのことを自然から学んでいる。時々、俳句も教えてくれる。

高野カズオ（福島・乙の会）

新米のぶくぶく波動一千年

コスモスの優柔不断の安定感

満月や台風の仕事俯瞰せよ

何となく俳句に接し二年、作句より句会の会話が楽しく、当然凡作ざらり。

何気ない日常の風景や出来事の俳句が好きです。

斎藤 秀雄（鏡石）

骨のきおく岸暮れて海鼠うたふ

それぞれの抽斗それぞれ月夜

姉妹羽化の気配虫籠のあはひ

俳句における唯一の伝統とは「つねに前衛であること」だと考えている。すでにいる読者に向けてではなく、書くことで読者を生み出すように書きたい。

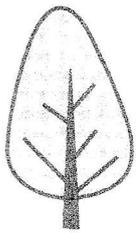
八島 ジュン（福島・小熊座）

心臓の輪郭であり月である

ほろほろと空のほどけてほろほろと雪

春隣絶望という救いある

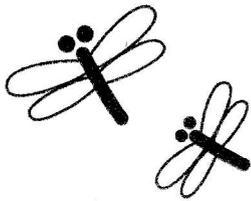
俳句は日記或いは呼吸のようなもの、なんて言えたら素敵だけど、今の私はまるで逆。ただ、深淵なるこの世界、細く長く楽しんでいけたらと思うのです。



福島県現代俳句協会会員名簿

(令和元年十月末現在連絡のあった方)

- 阿部多みこ(福島) 浅田正文(県外)
 五十嵐進(喜多方) 池田義弘(福島)
 石澤遙(郡山) 伊藤陽子(福島)
 宇川啓子(福島) 植木國夫(福島)
 海野良夫(湯川) 江井芳郎(南相馬)
 大河原真青(郡山) 春日石疼(福島)
 片平桂司(福島) 加藤征子(須賀川)
 久保鞆鼓(福島) 国分衣麻(須賀川)
 木幡テイ(南相馬) 斎藤秀雄(鏡石)
 佐川盟子(白河) 櫻井潤一(会津若松)
 佐藤弘子(福島) 柴田郁子(いわき)
 清水茉紀(福島) 鈴木満喜子(福島)
 鈴木正治(顧問・福島) 高野カズオ(福島)
 田中雅秀(会津美里) 唯木イツ子(福島)
 長岡由(いわき) 永瀬十悟(須賀川)
 丹羽裕子(福島)
 服部きみ子(福島)
 平子玲子(いわき)
 八島ジュン(福島)
 湯田一秋(会津若松)
 渡部健(県外)



※「県外」表記の方は現在避難中です

以上 現在三十六名

総会で確認された新年度予算

以下のように収入・支出の部の確認がされています。平成30年度は活動を休止し、会費の徴収もありませんでした。今年度予算については予算通りの執行にはならないと思われませんが、体制作りから始めていきたいと考えていますのでご理解ください。

収入の部	29年度決算	30年度決算	元年度予算	備考
会員会費	35,000	0	45,000	45×1,000
繰越金	102,948	58,460	48,622	繰越金
助成金	61,200	0	80,000	6月分
	23,500	71,100	22,000	12月分
利子	1	0	5	預金利子
合計	222,649	129,560	195,627	

県現代俳句協会員の新たにご協力を！

一年間の休会後の個別確認により、これを機に退会された方も多数いらっしゃいました。その結果会員減となり、運営的にも苦しい状態となっています。どうかお知らせの俳句愛好者に声をかけ、新会員拡大にご協力下さいますようお願い致します。県現代俳句を通すと本部より還元金があるため、ご連絡いただけるとありがたいです。

支出の部	30年度決算	元年度予算	備考
会議費	23,153	20,000	会場会議費
事務費	3,375	15,000	事務用品
事業費・賞品	15,030	20,000	会報発行・秋季俳句大会
旅費	17,000	15,000	役員会旅費
通信費	12,380	30,000	郵券・郵送・連絡
負担金	0	10,000	東北大会負担金
慶弔費	0	0	
東北大会役員補助	0	45,000	東北大会参加旅費
同上基金	0	30,000	同上福島大会準備積立
予備費	10,000	10,627	
合計	80,938	195,627	

編集後記

福島県現代俳句協会会報を久々にお届けできてほっとしています。経費節約のため手作業の「小さき旗揚げ」ですので、何かと問題はあるかと思えます。今後、魅力ある紙面づくりに努めますので、どしどしご意見を下さい。(S)